

第11回 箕面市小中一貫教育推進計画検討会議 記録

【日時】

令和6年（2024年）1月30日（火） 9:30～11:00

【会場】

箕面市役所 特別会議室

【議事概要】

- 小中一貫教育推進計画作成にあたり実施したパブリックコメントの結果を報告し、回答方針について議論を行った。
 - ・乗り入れ授業に関するご意見に対する回答に、定期試験について書かれているが、小中一貫教育推進計画案に書かれていることをもとに書いた方がわかりやすいと思う。
 - ・「取組」と「取り組み」について、統一した方が良いと思う。
 - ・教育委員会が進めるのか、学校が進めるのか、曖昧なところがあるので、見直した方が良い。学校が進める部分については、「促進します」や「支援します」といった書きの方が良いだろう。
 - ・小中交流の取組について、「検討していく」や「実施していく」ではなく、具体例を挙げるとイメージが膨らみ、現場の管理職も説明しやすいと思う。
 - ・小中一貫教育を推進していく中で、人数が多くて体育館や運動場が使えないといったことにならないように、ハード面のことも考えて欲しい。
- 小中一貫教育推進計画案について協議を行った。
 - ・私立から小中一貫校に転入してくる子どもが馴染みやすくするには、どうすることが必要なのか。
⇒教職員の意識が大切。子どもを受け入れるときに、子どもの情報だけでなく、今まで在籍していた小・中学校の教育も踏まえて中学校側がどう受け入れるか、小中一貫教育の視点を持って考えていくことが必要。
 - ・教育活動充実交付金について、具体的にはどういった使い方ができるのか。
⇒中学校区で行う取組、小中一貫教育の視点を取り入れた取組ならば認められる。
 - ・来年度小中一貫教育推進コーディネーターを中学校区に配置するということだが、どのように進めていくのか、今後の方向性について教えて欲しい。
⇒小中一貫教育推進計画を実現するために、中学校区内でリーダーシップを発揮できるコーディネーターの人選を行う。小中一貫推進計画はまだ現場に浸透していないところもあるので、教育委員会が指導助言を丁寧に行い、計画を実現できるようサポートをしていきたい。
 - ・教育委員会が考えている方針を、校長が現場の先生に伝えるという流れが一番き

れいなので、校長が大きな役割を果たすと考える。校長の小中一貫教育推進の意識をどれだけ深めていくかが大切である。

- 小中一貫教育担当指導主事が、小中一貫教育の取組について雛形を開発し、学校に提供するような流れにすると、学校側もイメージがわくし、教職員の負担軽減にも繋がるのではないか。もしやるなら早い方が良くて、令和6年度から取り組んでいくなら、前年度中には準備しておいた方が良い。
⇒前年度末に教育委員会として準備をして、学校に対してこちらから提案できるような体制に整えていくことが大切だと考えている。来年度に向けて事務局として準備を進めていきたい。
- 人事異動のスペンが短く、力を発揮できる状態になる前に異動となってしまう。この状態で小中一貫教育が根付いていくのかが不安であるし、現場の先生からすると不満でもあるという声も聞いている。
⇒施設一体型小中一貫校を経験した教員が、施設分離型の学校に異動してその経験を生かすこともできるなど人事異動がきっかけとなって市内の小中一貫教育が進むこともあると考えている。校長は、在籍する教員があと何年学校にいるのか等を考えながらマネジメントや人材の育成をして欲しい。
- 小中一貫教育推進コーディネーターを配置することはすごく良いことだと思う。
- 今年度、小中一貫の取組を行ったつもりではいるが、学校教育自己診断の結果、保護者や地域の方にはその取組が十分に伝わっていないことがわかった。小中一貫教育推進計画には小中一貫の取組がいろいろと書かれているが、どうすれば保護者や地域の方に理解していただけるかなと思った。令和6年度から様々な取り組みが実施されると思うので、良かった取組を他の中学校区にも伝えて欲しいと思う。
- 計画を立てて終わりではなく、ここからが始まりであることを感じた。

以上